

『皇大神宮儀式帳』(延暦 23 年：804 年成立)には、倭姫命(ヤマトヒメノミコト)が垂仁天皇の命を受けて天照大神を祭るのにふさわしい場所を探して巡幸し、「河曲鈴鹿小山宮」(カワワスズカオヤマノミヤ)に鎮座された倭姫命が、「ここはどこか?」ときいたところ、大比古命が、「味酒鈴鹿国」(ウマサケスズカノクニ)と答えた大比古命は神田と神戸を奉進した

『倭姫命世紀』(鎌倉時代初頭に成立か?)や、北畠親房『元々集』(正慶 6 年：1337 年ごろ成立)に垂仁天皇 17 年に「鈴鹿奈具波志忍山」(スズカナグワシオシヤマ)に神宮を造り、天照大神を 6 か月祭祀したとの記事がある

『延喜式神名帳』(延長 5 年：927 年成立)に鈴鹿郡内 19 の神社として「忍山神社」がみえる

古代・中世の記録では、「鈴鹿小山宮」、「忍山神社」がどこであるかはわからない

穂積吉倉『忍山神社記』(350 年ほど前に成立)  
「忍山神社」は、猿田彦大神をまつる「忍山大明神」と天照大神をまつる「忍山神宮」に二座がある。  
「倭姫命」が天照大神を奉じてこの地を巡幸したとき忍山宿禰(オシヤマノスクネ)の祖である大水口宿禰(オオミナクチノスクネ)が宮殿を造立したこれが忍山神宮である  
450 年ほど前に織田信長の兵火によって社殿などを焼失し、神宝や古文書も焼失したので、「白木山」に避難した旧社地には真福寺という大寺院があった

安岡親毅『勢陽五鈴遺響』(天保 4 年：1833 年成立)に、忍山神社は、野村の西南、鈴鹿川の傍らの小山に鎮座し、俗称を「白髭明神」といい、  
忍山宿禰と弟橘媛命がまつられている  
倭姫命巡幸地は現在の社地ではなく、野村の南、観音堂が所在する地こそ、天照大神の旧蹟である

鈴鹿郡教育会『鈴鹿郡郷土誌』(大正 4 年：1915 年成立)に忍山神社は、天照大神の旧蹟で、弟橘媛命の生誕地

山田木水『亀山地方郷土史』(昭和 34 年：1959 年成立)  
天照大神の旧蹟は、神福寺のあった愛宕山(押田山)である  
愛宕山南麓に、古瓦・礎石がみられ、これが神福寺跡である  
忍山宿禰に二人の女があり、姉が弟橘媛命、妹が弟財郎女(オトタカラノイラツメ)である

【現在の認識】

忍山神社は「鈴鹿小山宮」であり、  
弟橘媛命の生誕地である。

## 愛宕山

天正 11 年(1583 年)に羽柴秀吉が亀山城を攻めたときは「新福寺山」、江戸時代はじめごろは「押田山」とよんでいた。  
300 年ほど前に、「野村宝光院」の山伏が勝軍地藏(愛宕権現)を山上に祀ったことから「愛宕山」と呼ばれるようになった。  
『亀山地方郷土史』によれば、倭姫命が天照大神を奉じて滞在した地は、愛宕山で、かつて「忍山神社」が鎮座していたので、「神山」とよび、これがなまって「亀山」になった。

## 新福寺跡(真福寺・神福寺とも記す)

永正 8 年(1511 年)に内宮の出した通知文の記事「鈴鹿小山宮」の跡地は、清浄な霊地であったので「神福寺」を建立してその地を鎮護した  
文明 4 年(1472 年)、兵火により、聖徳太子や行基の手になる仏像などすべてが焼けてしまった

## 忍山観音堂跡

300 年ほど前には、「忍山」にあって神宮寺観音堂とよばれていた  
正保 2 年(1645 年)に長福寺(現慈恩寺)に薬師堂を建立し  
旧慈恩寺の薬師如来を安置した  
現在の慈恩寺に、「忍山神宮寺」の版木がのこされている  
明治 5 年(1872 年)に慈恩寺境内に観音堂を移した

## 慈恩寺

500 年前の亀山には、「慈恩寺・新福寺・阿弥陀寺・長福寺」の律宗寺院があった。(『宗長手記』)  
天正 3 年(1575)、本尊を阿弥陀如来に改作し、浄土宗に転派、寺号を慈恩寺から長福寺とする  
300 年ほど前には「慈恩寺」の跡は畑となっていた  
享保元年(1716 年)徳川吉宗の長子、長福丸の名をはばかって寺名を慈恩寺に復した(『寺縁起』)

## 忍山遺跡

発掘調査により、縄文時代終わり(約 2500 年前)には人々が住み始め、戦国時代ごろまで村があったことがわかっている。

